

2月25日正午必着

明石春浦先生書



こうろうにのぼりてりゅうしよくをみるなかれ
 莫上高楼看柳色
はるうれいおおくほざんのうちにあり
 憂多在暮山中
 (趙執信)

たかどのに登って柳色をながめない方がよい。春時の憂愁は多くあの夕暮の山にこめられているのだから。

窪田華岳先生書



こをあいすこころはつくるなし
 愛子心無盡
 (蔣士銓)

親が子を愛す、その心は尽きることがない。



明石幸子書

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

溪頭微雪點疎松、睡起門窓對遠峯 (袁宏道)

谷川のあたり、小雪がまばらな松の木立に白色を点じている。朝起きて窓から遠景の山峰を望み見る。

梅花落處疑殘雪 (杜審言)

梅花落つる處殘雪かと疑う。

梅の花が散ったあたりは残雪かと見まちがうほど白い。

滿地碧烟新草色 一痕春意早梅花 (文徵明)

滿地の碧烟新草色 一痕の春意早梅花

痕は痕跡、しるし。庭一面に緑の煙かと目を疑うように新草が萌え、梅花の咲きそめに春のおとずれを感じる。

客中 (于武陵)

客中 于武陵

楚人歌竹枝 游子淚沾衣 異國久爲客 寒宵頻夢歸 一封書未返 千樹葉皆飛 南過洞庭水 更應消息稀

楚人 竹枝を歌い 遊子 涙衣を沾す 異國 久しく客と為り 寒宵 頻りに帰るを夢む 一封の書 未だ返らざるに 千樹 葉皆な飛ぶ 南のかた洞庭の水を過ぐれば 更に心に消息稀なるべし

きさらぎもやよいも山は春寒くひといる春の草枯れやさし (福田 榮一)

半紙部規定課題A

2月25日正午必着

争 林
樹 晚
鳥

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

2月25日正午必着

行書

林晚鳥
身在春

隸書

林晚鳥
身在春

明石春浦先生書

草書

林晚鳥
身在春

行草書

林晚鳥
身在春

美玉を抱きながら（才能を有しながら）、この京城繁華の地で涙にくれる 故郷の山々は、帰り行く道程があまりに遠い
静けさは禅僧の房に傍うてただよ 奥深さは庶民の家のよう
林に日は暮れて、鳥たちはねぐらの木を争い 庭に春が訪れ、蝶は花を守護するかのよう
東の城門の所には空き地がある 誰がかの邵平に倣って瓜を種えるだろう

下第寓居崇聖寺 許渾

懷玉泣京華

舊山歸路賒

靜依禪客院

幽學野人家

林晚鳥爭樹

園春蝶護花

東門有閑地

誰種邵平瓜

下第して崇聖寺に寓居す

許渾

玉を懷いて 京華に泣く

旧山 帰路賒かなり

静は禅客の院に依り

幽は野人の家を学ぶ

林は晩れて 鳥は樹を争い

園は春にして 蝶は花を護る

東門に閑地有り

誰か邵平の瓜を種えん

2月25日正午必着



備列せざるは罔し。

雨宮春聲先生臨書



(造石像一) 區、凡及衆形、罔不備列、願乾祚興延、方朝貫、願藏等挺三槐於孤峰、秀(九棘於華苑)。

(石像一) 區を(造り)、凡て衆形に及ぶまで、備列せざるは罔し。願わくは乾祚興延し、万方朝貫せんことを。願わくは藏等三槐を孤峰に挺んで、(九棘を華苑に)秀で、

北魏 魏靈藏薛法紹造像記

中国各地には数百もの石窟寺遺跡が散在しているが、なかでも群を抜いて規模が大きいのが甘肅省の敦煌・山西省の雲崗そして、河南省の龍門石窟である。石窟寺は山岳を掘削して洞窟をつくり、そこに仏像を刻し安置した仏教施設であり、さらにその由来を壁に刻したものを造像記とよんでいる。

龍門石窟は河南省洛陽の南約十三キロメートルの龍門にあり、伊水をはさんで東西に石灰岩の岩山が対峙している。北魏王朝の孝文帝が洛陽に遷都(四九三)するとともに、北方の民族を扶植することを目的に、漢化政策の一端として龍門を掘削させたのを最初とし、以来何百年もの長期にわたり無数の石窟の造営が行われ、随・唐を経て五代・北宋までおよんでいる。それにもなう造像記の数も、文字の識別し得るもので三千種以上もあるといわれている。そのうちおよそ三百種ほどのものが北魏刻とされており、北朝の書風がうかがう資料として大変貴重なものである。古来、そのなかの書法のすぐれたものを選んで龍門二十品とよんでいる。

この魏靈藏造像記はその二十品のうちの一つにあげられ、龍門石窟最古の古陽洞のなかにある。緊密な構成、鋼のような鋭い線質、えぐる如き転折。結構法とともに起筆から終筆にいたるまでのゆるぎない力強さを学びたい。

(春濤)



みちをおさむるにはげんもくをたつとぶ
 治道尚「玄黙」
 書

(耶律楚材)

道をおさめ修養するには、沈静が大切である。

△做書参考▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。



2月25日正午必着

教育部毛筆



雨宮春聲先生書

きゅう
宮

でん
殿

中学一年



菅井松雲先生書

せい
静

じやく
寂

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



と
都

かい
会

小学五年

藤井良泰先生書



て
手

ちよう
帳

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

2月25日正午必着



細谷春誠先生書

ぶん

か

小学三年



榎戸春龍先生書

て

がみ

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

う め 小学一年・幼年



藤田幸春先生書

すし 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

2月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

ていて 気持ち がいい	清けつ な服そ うは見
-------------------	-------------------

小学五年

町の灯 火が美 しい	山の 上から 見ると
------------------	------------------

小学六年

待ち遠 しい春 を思う	暗い北 国の海 を見つ め
-------------------	------------------------

中学

い立つ 炭焼き 小屋の 煙	雪山の 彼方に うつつ すら上
------------------------	--------------------------

一般(級位)

すの聲 うらう のこ のこ	梅が香 たぐへ てゆけ ばうぐ い
------------------------	-------------------------------

一般(段位)

梅が香に たぐへて聞けば うぐひすの 聲なつかしき 春の山ざと (西行法師)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ず	し
に	ろ
も	く
ぐ	ま
っ	が
た	
	み

幼年

を	い
	ぬ
だ	の
っ	赤
こ	ち
し	や
た	ん

小学一年

る	細
と	い
お	み
寺	ち
が	を
あ	ぬ
る	け

小学二年

雪	し
が	ず
ふ	か
っ	な
て	山
い	里
る	に

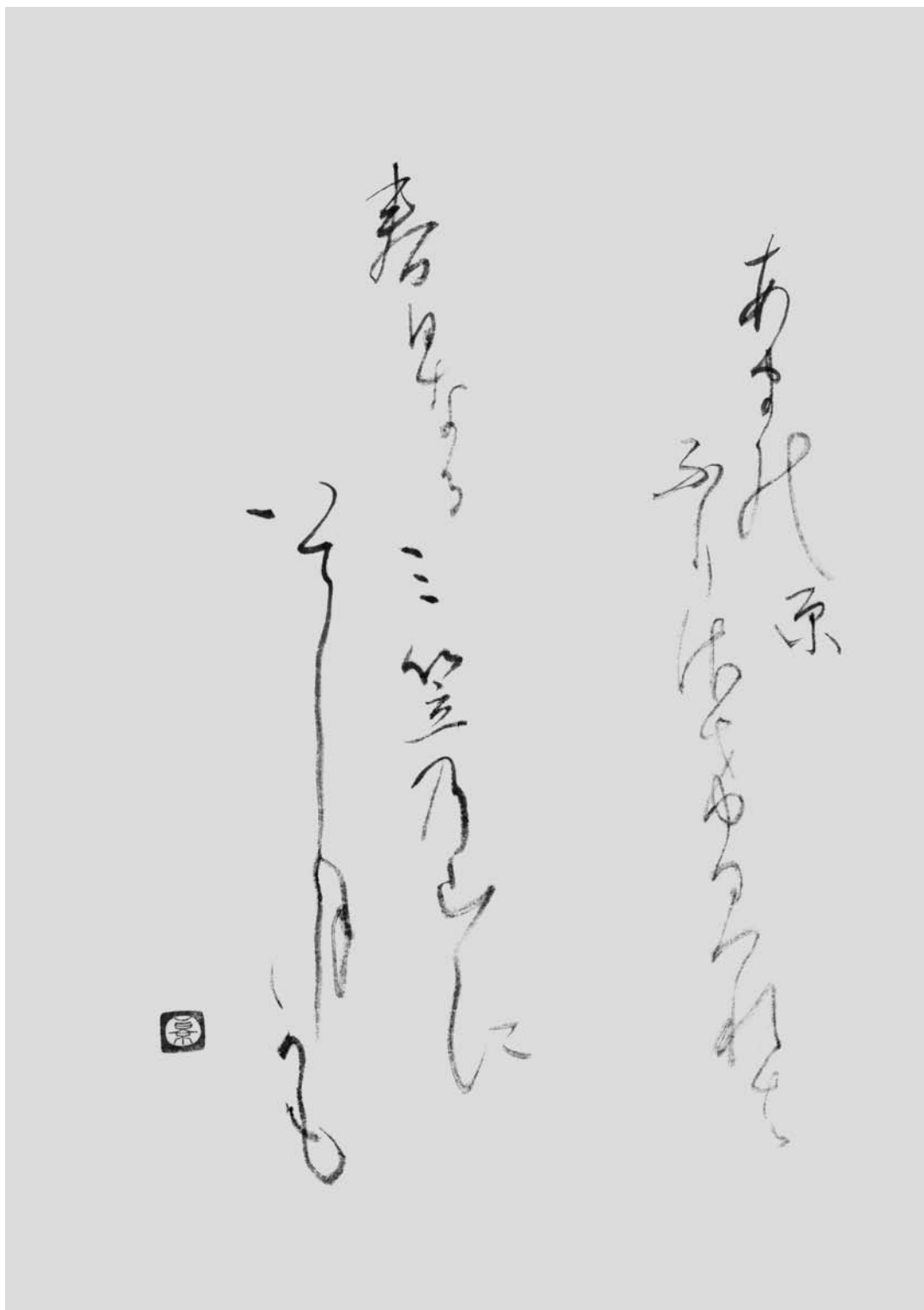
小学三年

く	空
と	を
戦	飛
う	び
ピ	な
ター	が
パン	ら
	海
	ぞ

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



あまの原 末能 ぶりさけ見れば 佐希 春日なる かすが 三笠の山に みかさ いでし月かも 乃 (安部仲麿)

岩本景楓先生書